

佐野市立犬伏小学校



校長室だより



令和5年度 第13号
R5.9.29
館野 道明

「知っている」（知識・理解）から「している」（実践）へ

9月7・8日の二日間、一泊二日で4年生の太平少年自然の家
宿泊学習が行われました。その出発式では、初めての宿泊学習において、
大切にしてほしいことを確認しました。

「なかよく」「楽しく」「美しく」を意識して活動してほしいという内容です。



・「なかよく」→ だれと…「友達」「先生」、そして「自然」となかよくなしてほしい。

さらには「時間」ともなかよくできるといよいよ。自分たちでしおりを見て、
先を見通した準備や行動ができると時間を有効に使うことができます。

・「楽しく」→ だれが…「自分」はもちろん「友達」「先生」、そこにいる全ての人が「楽しい」と
思えるようにしてほしい。

・「美しく」→ 何を…「自然の家」「太平山」は来たときよりも美しくが基本です。

そして「うわばき・くつ・スリッパ」をそろえられると更にすばらしいです。



当然、4年生たちは、話を聞いて何が大事か頭では理解し、
分かっています。しかし、分かっているでも実際に実践できている
かは別の話です。その実践の場が遠足であり、宿泊学習です。

例えば、「私は、おいしいカレーの作り方を知っています。」と
言っている人が、実際においしいカレーを一度も作ったことが
なければ、その人は本当においしいカレーが作れるのだという
ことになりません。大事なのは、実際にできるかどうかです。



本当においしいカレーを作ることができて初めて価値があると思います。

つまり、分かっている、知っているだけでは不十分なのです。ですから、何事も失敗してもいいから「やってみる。」ことです。まずは、やってみること。やってみて失敗したら原因を探り、またやり直してみる。この繰り返しで、できるようになってきます。

このことは、全てのことに当てはまる原理です。

今後、1・2・3年生は遠足、5年生は宿泊学習、6年生は修学旅行が予定されています。

自分の家や学校から離れた場所で、多くの友達と過ごす特別な日です。とても楽しみにしている
お子さんも多いとは思いますが、逆にすごく心配しているお子さんもいるかと思っています。

どちらにしても、私は一人一人が、更に成長できる機会ととらえています。

公衆道徳やマナーを実践を通して理解するとともに、友達同士で考えを出し合ったり、助け合
ったり、励まし合ったりする経験を通して、友達の大切さや、また家族のありがたさなどを感じ取っ
てほしいなと思っています。